

第2四半期決算説明及び 2021-2023年 中期経営計画 進捗報告

2021年11月12日

1. 第2四半期決算説明

2. 2021-2023年 中期経営計画 進捗報告

注力拡大分野（ICT/熱マネジメント）進捗報告

2021年度 第2四半期決算 及び 通期見通し トピックス

① 特別損失の計上（2021年度第2四半期）

2019年12月に発覚した高圧ガス保安法に基づく登録特定設備製造における不適切事案（以下、熱交事案）に関連して、顧客への補償見込額12.2億円を特別損失に計上。

② 業績予想の修正（2021年度通期）

熱交事案に関連して特別損失を12.2億円計上するも、販売構成の変化や経費削減等により経常利益は前回予想を6.2億円上回り、固定資産売却益3億円及び繰延税金資産3億円の計上により、当期純利益の予想は3.3億円を堅持。

③ 熱交事案の今後の状況

熱交事案につきましては、補償交渉の早期決着と取引の全面再開に向けて取り組んでおります。交渉進展に伴い再度追加の引当となりましたが、交渉が相当程度進展したことから、現時点において、今後新たに大きな費用負担が発生する材料は確認できておりません。

2021年度 第2四半期決算 - セグメント業績

<対米ドル為替(期中平均)> <107> <110> (億円)

	2020年度 上期 実績	2021年度 上期 実績	前年 同期比 差異
売上高	169.3	188.2	18.9
航空宇宙	83.7	93.5	9.8
産業機器	47.5	57.2	9.7
ICT	38.1	37.5	-0.6
営業利益 (営業利益率)	-6.5 -3.8%	4.7 2.5%	11.2 6.3%
航空宇宙	-5.3 -6.3%	-0.4 -0.4%	4.9 5.9%
産業機器	-1.3 -2.7%	5.7 10.0%	7.0 12.7%
ICT	0.1 0.3%	-0.6 -1.6%	-0.7 -1.9%

<航空宇宙>

防衛装備品の納期が上期に集中したことに加え、民間航空機向け機器は新型コロナウイルス感染症拡大の影響が底を打って一部需要が回復したこと等に伴い増収。損益は赤字縮小。

<産業機器>

精密油圧機器は、主力とする中国の射出成型機向けの需要が増加。収益認識基準変更に伴う熱交換器の減収影響をカバーし、増収増益。

<ICT>

販売面は、半導体向けオゾン発生装置及びMEMS・半導体製造装置の需要が増加するも、当年度は下期偏重傾向にあり、上期微減。損益面では、MEMS・半導体製造装置において、国内向けが減少し、海外向けが増加したことに伴う構成変化により減益。

本資料の予想は、「収益認識基準に関する会計基準」企業会計基準第29号 2020年3月31日、及び「収益認識に関する会計基準の適用指針」企業会計基準適用指針第30号 2020年3月31日を適用しております。一方、比較する前年度実績はこれらの会計基準等を適用しておりません。

2021年度 第2四半期決算 - 概況

<対米ドル為替(期末)> <106> <112> (億円)

	2020年度 上期 実績	2021年度 上期 実績	前年 同期比 差異
売上高	169.3	188.2	18.9
営業利益 (営業利益率)	-6.5 -3.8%	4.7 2.5%	11.2 6.3%
営業外収益	1.6	5.1	3.5
営業外費用	-3.5	-2.4	1.1
経常利益 (経常利益率)	-8.4 -5.0%	7.4 3.9%	15.8 8.9%
特別損益	1.0	-9.1	-10.1
税引前当期利益	-7.4	-1.7	5.7
当期純利益	-8.4	-2.4	6.0
EPS(円/株)	-159	-45	113
ROE	-1.1%	-0.9%	0.2%
配当(円/通期)	0	0	-

営業外損益：

米ドルに対して為替円安が進行したことに伴い、為替差益を1.7億円計上（前年同期は為替差損▲0.9億円を計上）。また、米国子会社において、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う政府支援として借り入れていた融資が債務免除となり、1.7億円を補助金収入に計上。

特別損益：

2019年12月に発覚した高圧ガス保安法に基づく登録特定設備製造における不適切事案に関連して、該当製品に関わる顧客への補償等による損失見込額について、2019年度に10.0億円、2020年度に14.9億円を計上しましたが、当第2四半期において顧客との交渉が進展したことに伴い、追加損失見積額12.2億円を顧客補償等対応費用引当金繰入額として特別損失に計上しました。

2021年度 通期予想（前回予想比較）

<対米ドル為替期中平均> <106> <108> (億円)

	2021年度 通期 前回予想	2021年度 通期 今回予想	前回予想 との差異
売上高	446.6	446.6	0.0
航空宇宙	185.1	191.7	6.6
産業機器	144.6	133.7	-10.9
I C T	116.9	121.2	4.3
営業利益	3.6	11.4	7.8
(営業利益率)	0.8%	2.6%	1.7%
航空宇宙	-16.3	-7.3	9.0
産業機器	8.8	7.4	-1.4
I C T	11.1	11.3	0.2
営業外収益	4.8	4.3	-0.5
営業外費用	-2.4	-3.5	-1.1
経常利益	6.0	12.2	6.2
(経常利益率)	1.3%	2.7%	1.4%
特別損益	3.0	-6.1	-9.1
税引前当期利益	9.0	6.1	-2.9
当期純利益	3.3	3.3	0.0
E P S (円/株)	62	62	0
R O E	1.2%	1.2%	0.0%
配当 (円/通期)	25	25	0

<航空宇宙>

民間航空機向け機器は、新型コロナウイルス感染症拡大による受注減少が底を打って一部需要が回復していること等に伴い、販売は前回予想を上回り、損益は赤字縮小の見込み。

<産業機器>

中国向け精密油圧機器は、前年度後半から需要が上向き、当年度は一年を通じて好調が続くと見ていたが、下期は一転して需給調整の局面に入り、通期では減少。また、プラント用熱交換器は取引の全面再開が遅れていることにより、収益は前回予想を下回る見込み。

<I C T>

半導体業界における顧客投資が上向き、オゾン発生装置およびMEMS・半導体用製造装置の需要増加により、販売は前回予想を上回る。一方、損益面は、装置の販売構成変化もあり微増に留まる見込み。

財務体質 - 財務指標の推移と目標

(億円)

	2020 年度末 実績	2021 上期末 実績	2021 年度末 予想
総資産	826	806	758
(内、現預金)	(122)	(103)	(100)
有利子負債合計	285	261	290
自己資本(純資産)	267	264	270
D/E レシオ	1.07	0.99	1.07
(NET D/Eレシオ) (※)	(0.61)	(0.60)	(0.70)
自己資本比率	31.8%	32.0%	35.0%
ROE	-9.6%	-0.9%	1.2%
FCF	3	12	-19

(※)NET D/Eレシオ = (有利子負債合計 - 現預金) ÷ 自己資本(純資産)

本資料の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、予想に内在する不確定要因により、実際の数値は当該予想とは異なる場合があります。

総資産は、当年度末に向けて航空宇宙事業を主体に棚卸資産を圧縮。また、第3四半期に不動産の売却も実施。

有利子負債は、現預金を100億円に圧縮するも、熱交換器の顧客補償等対応費等の支払により、当年度末は290億円まで増加。D/Eレシオは当上期末0.99 (NET D/Eレシオ 0.60) から当年度末1.07 (NET D/Eレシオ 0.70) となる見込み。

1. 第2四半期決算説明

2. 2021-2023年 中期経営計画 進捗報告

注力拡大分野（ICT/熱マネジメント）進捗報告

成長ポテンシャルがある事業の
戦略転換、開発の加速

拡大する市場での事業育成に向け、
積極投資で将来の収益基盤を育成

市場・製品
開発促進

市場成長率

低

合理化推進



開発から
事業

MEMSデバイス
システム
オゾン発生装置
(半導体分野)



高濃度オゾン発生装置



姿勢計測装置 (MEMSジャイロ・センサ)

MEMSデバイス製造
(ファンドリ事業)

MEMS・半導体
製造装置



シリコン深掘り装置 PROXION (プロキオン)

汎用
熱交換器



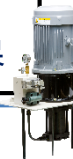
新幹線車両用インバーター制御素子冷却器

航空機エンジン用
熱交換器(民需)



Trent 1000®エンジン用液(燃料)冷式オイルクーラー

精密
油圧機器



CQTポンプ

積極投資

社会貢献向上

オゾン発生装置
(システム分野)



一般用オゾン発生装置

LNG/プラント
熱交換器



オープンラック式LNG気化器

防衛航空脚・
プロペラ (官需)



C-2 (写真出典 防衛省様HPより)

収益基盤強化

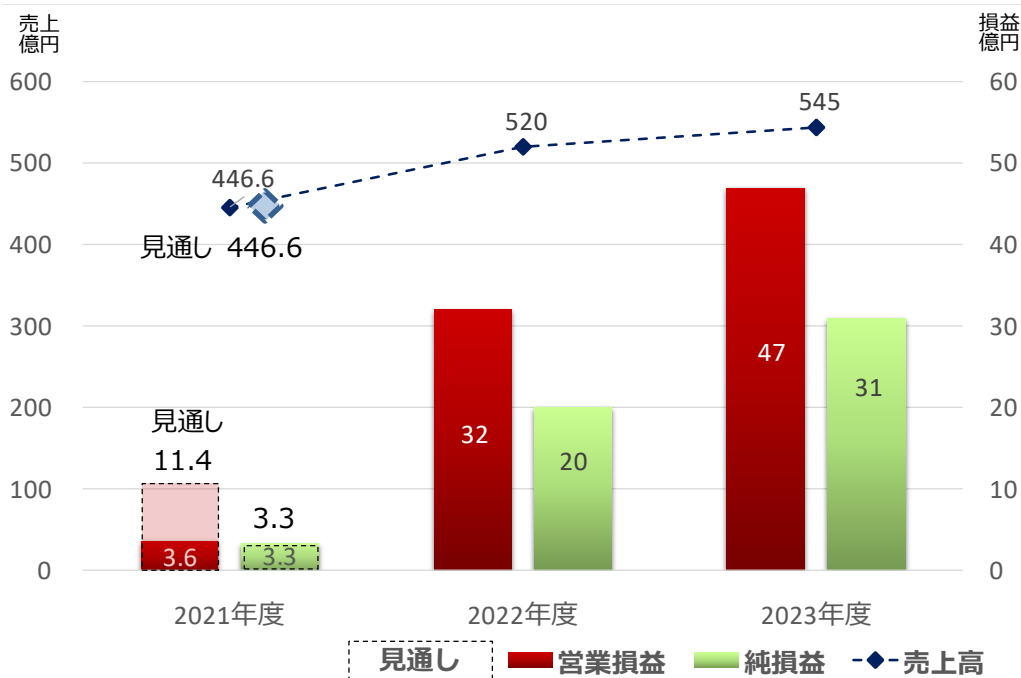


CRJ700/900/1000主脚

事業方針の見極めと、
合理化実行

低 ターゲット市場での強さ 高

成熟期を迎えた市場で
安定して投資の源泉を稼ぐ



航空宇宙事業:

民間航空機向け機器は、新型コロナウイルス感染症拡大による受注減少が底を打って一部需要が回復していること等に伴い、販売は計画値を上回り、損益は赤字縮小の見込み。

産業機器事業:

中国向け精密油圧機器は、前年度後半から需要が上向き、当年度は一年を通じて好調が続くと見ていたが、下期は一転して需給調整の局面に入り、通期では減少。また、プラント用熱交換器は取引の全面再開が遅れていることにより、収益は計画値を下回る見込み。

ICT事業:

半導体業界における顧客投資が上向き、オゾン発生装置およびMEMS・半導体用製造装置の需要増により、販売は計画値を上回る。一方、損益面は、装置の販売構成変化もあり微増に留まる見込み。

2021年度 (単位:億円)	計画値	見通し	航空宇宙	産業機器	ICT
売上高	446.6	446.6	191.7	133.7	121.2
営業損益	3.6	11.4	-7.3	7.4	11.3
純損益	3.3	3.3			

対計画

売上差異	-	0.0	6.6	-10.9	4.3
営業損益差異	-	7.8	9.0	-1.4	0.2

2021-2023年 中期経営計画・現況と見込み（航空宇宙事業）

中期計画策定時の想定

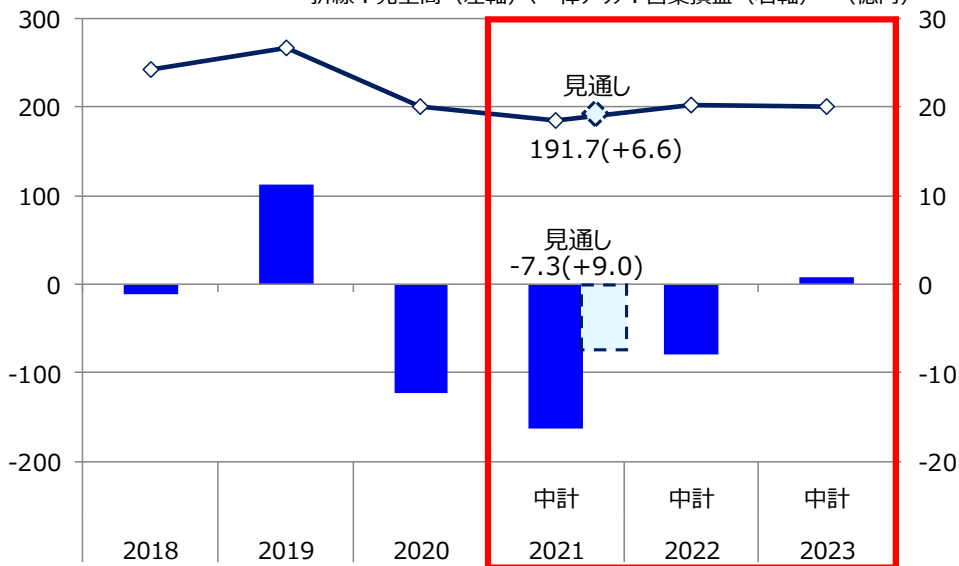
航空宇宙 熱交事業:

- 大型機及び中小型機向け航空機エンジン用熱交換器のバランス良い受注の獲得
- 熱マネジメントに関する技術課題として、3Dプリンティング技術、ノウハウの習得

航空宇宙 脚関連事業:

- 【防衛航空】量産案件の生産効率及び生産技術の向上
- 【民間航空】固定費及び棚卸資産削減等の合理化推進

折線：売上高（左軸）、棒グラフ：営業損益（右軸）（億円）



現況と将来の見込み

- 民間航空機向けは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が底を打ち、今後、**中小型機の需要回復は続く。大型機の需要回復は24年以降を見込む。**
- 連結子会社の整理統合による合理化を推進中。
- 生産・調達プロセスの改善活動を継続。
- 3Dプリンティング技術の徹底的研鑽（後掲）。

航空宇宙熱交・脚関連

2021-2023年 中期経営計画・現況と見込み（産業機器事業）

中期計画策定時の想定

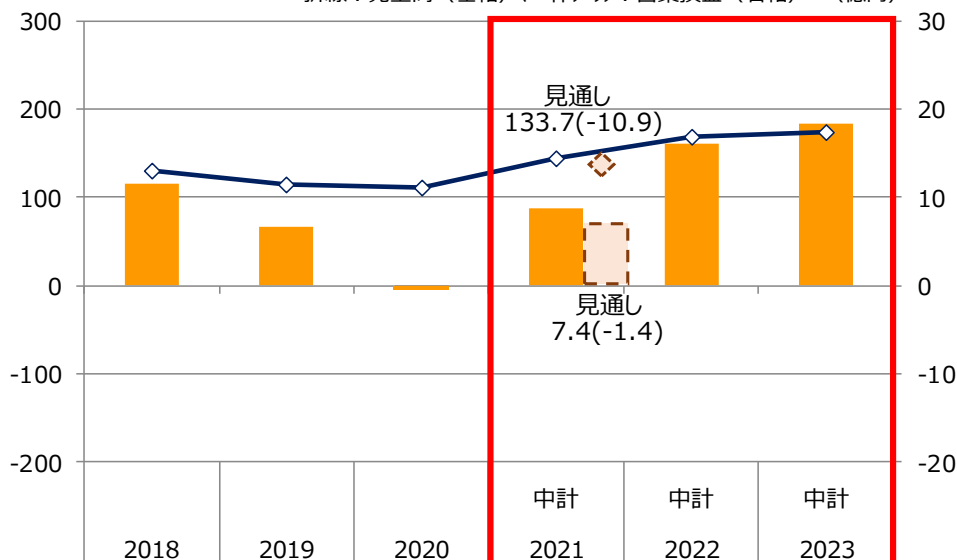
産業熱交換器事業:

- 品質最優先の方針を堅持
- 生産の全面再開を実現し、成長軌道への回復
- 高発熱化する電子部品向け冷却器の新規拡販
- 水素バリューチェーンの熱マネジメントに寄与するよう、水素製造、液化、気化等のセグメントへの取り組み

精密油圧機器事業:

- 海天との連携強化。生産能力を増強し、中国市場の旺盛な需要増に対応する。

折線：売上高（左軸）、棒グラフ：営業損益（右軸）（億円）



現況と将来の見込み

産業熱交換器

- プラント用熱交換器の取引再開が想定より遅れているが、21年度中に全面再開し、'22-'23年度計画を実現する。
- 高速通信インフラの発達、輸送機電動化を背景に、電子部品冷却需要が上向き、更に放熱ソリューション市場への拡販を進める（後掲）。
- 水素関連向け等、当社熱マネジメント技術を活用した引き合いに対応中。

精密油圧機器

- '21年度上期好調、下期に中国における射出成型機市場減速による需給調整の局面に入るが、景気の減速は一時的であり、'22-'23年度計画達成の見込み。

2021-2023年 中期経営計画・現況と見込み（ICT事業）

中期計画策定時の想定

MEMS・半導体製造装置事業

- ・化合物半導体に対するナノレベルの加工・特性改善に向けた研究開発を継続、顧客が要求する多種多様なアプリケーションへ展開して価値提供する

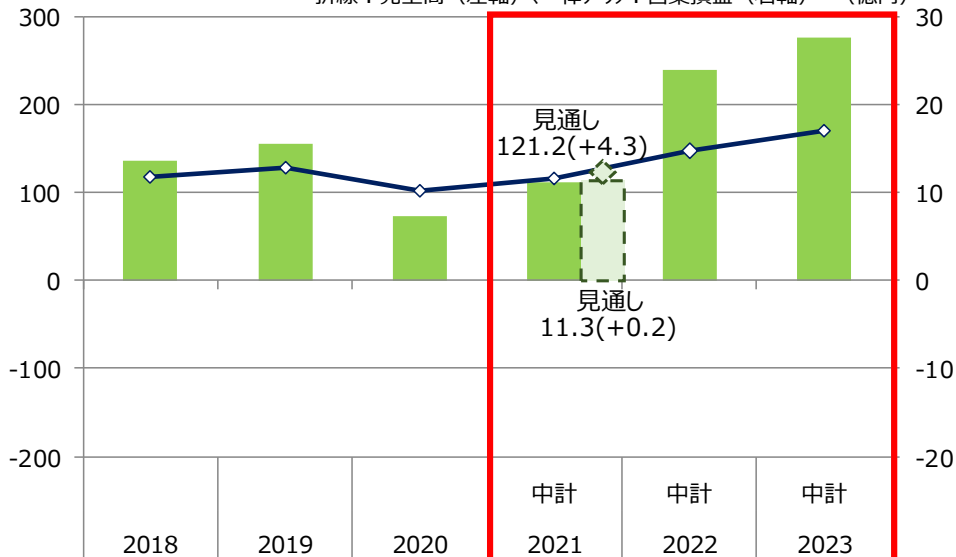
MEMSデバイス/応用製品事業、ファンドリ事業

- ・高精度な姿勢計測・制御が必要なアプリケーション向けに、MEMSデバイスをコアとしたシステム化展開で事業範囲拡大

オゾン発生装置事業

- 【半導体】ALD*・洗浄分野のシェアアップ
- 【システム】殺菌・AOP**分野で拡販

折線：売上高（左軸）、棒グラフ：営業損益（右軸）（億円）



現況と将来の見込み

MEMS・半導体製造装置事業/ オゾン発生装置事業

- ・半導体市況は好調なるも、部品調達の長納期化が共通課題。
- ・22年度以降の当社ターゲット市場の鈍化は見られず現時点推定は上向き。

MEMSデバイス/応用製品事業

- ・単結晶 PZT 薄膜の開発・販売開始（後掲）。

MEMSデバイス製造（ファンドリ）事業

- ・好調な市況を背景に、エンジニア・設備・スペース等社内体制を構築し、新規顧客向けに対応する。

ICT市場へのさらなる事業拡大に向け、
統合戦略室(MEMSソリューション室)を設置

*:ALD:原子層堆積 (Atomic Layer Deposition)、

** :AOP:促進酸化プロセス (Advanced Oxidation Process)

1. 第2四半期決算説明
2. 2021-2023年 中期経営計画 進捗報告
注力拡大分野（ICT/熱マネジメント）進捗報告

世界初のシリコン深掘り装置と、20年以上にわたるMEMSジャイロ量産実績から、半導体製造装置・MEMSデバイス製造・MEMS応用デバイス/システムへと事業を展開し、それらの競争力の源泉となる装置・プロセスの技術開発にも注力してきました。

電動化・省エネやデジタルヘルスケアを支える、各種デバイス・システムや高速通信のさらなる発展に向けて、当社技術の強みを活かした製品・サービスを提供し、脱炭素・ポスト5G・デジタル社会に貢献していきます。



対応するSDG's項目



ICT分野 持続可能な社会への取り組み

世界最高性能※1の単結晶 PZT 薄膜の開発・販売開始

当社は、圧電式MEMSデバイスへ適用可能な、世界最高性能の2種類の単結晶チタン酸ジルコン酸鉛（以下 PZT）薄膜を同時開発しました。6インチおよび8インチの大口径ウエハプロセスに対応しており、2021年10月よりサンプル品の供給を開始し、2022年4月より販売を開始する予定です。

- ・ **タイプ A：** センサ性能重視型
- ・ **タイプ B：** センサ性能・アクチュエータ性能バランス型

従来のPZT薄膜は誘電率が高く、優れたセンシング能力を得られないという課題がありました。今回当社が開発した単結晶PZT薄膜は、アクチュエーション能力の低下を抑制しながら、センシング能力を従来比で **1.5~2倍向上**、アクチュエータとセンサの両機能を併せた圧電薄膜の性能を示す値 FOM は、**世界最高性能を達成** しています。

本製品により、センサ機能を有する MEMS の機械構造体・信号処理回路の簡略化・小型化や、高感度で新たな機能を発揮する MEMS の登場が期待され、自動運転技術、高精細プリンタ、スマート医療、高セキュリティ認証システムなどのMEMS アプリケーションを通じて、快適で利便性の高い暮らし、安全・安心な社会の実現に貢献できると考えております。

デバイス応用例



超音波指紋認証センサ
静脈認証センサ



掃除ロボット（障害物検知）



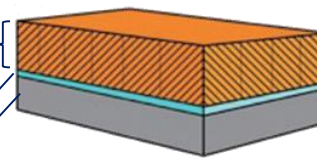
対応するSDG's項目



実物の断面観察像（透過電子顕微鏡像）

Copyright © Sumitomo Precision Products Co., Ltd. All rights reserved.

単結晶 PZT 薄膜



膜構成のイメージ図



8インチ ウエハ

※1 2021年7月28日現在 当社調べ

デジタル・トランスフォーメーションやカーボン・ニュートラルの流れが加速する中で、急上昇する熱制御のニーズに応えるべく、当社技術や知見を結集して、あらたな製品・サーマルソリューションサービスを提供して、熱マネジメント市場に挑戦する。

航空宇宙 熱交事業

<設計技術>

- 軽量化設計技術と製品の信頼性
- 流体解析技術、トポロジー*最適化解析

<製造技術>

- 素材加工技術
- 3Dプリンティング（積層造形技術）

*指定した材料分布範囲に対して設定した工学的な条件（設計変数）に基づき、最適な材料の密度分布を導き出す、構造最適化手法の一種

産業 熱交事業

<設計技術>

- 多流体設計・熱設計技術
- 高性能 沸騰素子冷却技術

<製造技術>

- 大型真空炉とそのレシピによる、ろう付け技術
- 数百種に及ぶ種類のフィン成型

相乗効果の発揮による製品・サーマルソリューションの提供

輸送機の電動化/ 脱化石燃料

- 次世代水素燃料航空機
- 水素/電気自動車 など

高速通信インフラと データ爆発

- データセンターにおけるエネルギー効率の大幅改善 など

水素 バリューチェーン

- 水素を、作る、運ぶ、使うあらゆる場面で発生する熱をコントロールする



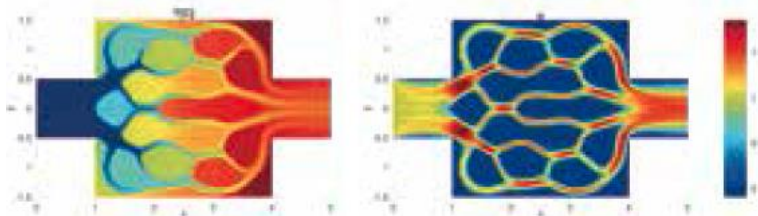
対応するSDG's項目

熱マネジメント分野 持続可能な社会への取り組み

電動化航空機・水素燃料利用航空機向け機器の技術開発

近年、航空機のCO₂排出削減による環境負荷の低減は、世界的に重要な課題となっており、航空機の電動化及び水素燃料利用に関わる技術・製品開発が進んでいます。こうした背景から、インバーター・バッテリー・モーター等、電動関連機器の冷却、航空機全体の排熱及び熱の再利用のため、軽量・高性能・複雑形状の熱交換器の需要が高まることが予想されます。

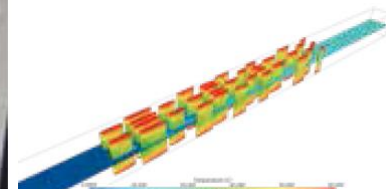
当社は、今後も航空業界の動向を注視しながら、市場ニーズを満たす熱解析技術・機器設計・製品開発の推進に取り組むとともに、金属3Dプリンティング技術（金属積層造形技術）といった新しい製造手法にも挑戦してまいります。



熱交換器流路最適化(トポロジー最適化*) 事例



金属3Dプリンターで造形した熱交換器試作品



熱解析事例(流体数値解析)

高性能化・高発熱化する半導体向け冷却器の新規拡販

当社は、車両及び産業機械向けパワーデバイスの冷却用として冷媒の相変化（沸騰と凝縮）を利用した二相流循環型冷却器（サイフォレックス™）を開発し、多くの製品を供給してまいりました。この製品に改良を加え高性能化することで、高まる半導体からの発熱に対し高効率の冷却が可能となりました。ハイパースケールデータセンターや、メガソーラーのパワーコンディショナー、輸送機の電動化等、小型高性能冷却のニーズは飛躍的に高まっており、次世代の戦略製品のひとつとして拡販に注力してまいります。



データセンター向けサーバーのCPU冷却用に開発した小型・高性能な相変化型冷却器(フラットサイフォレックス)



対応するSDG's項目